

その1 フィルターの歴史

シガレット（紙巻たばこ）の歴史とフィルターの歴史は並行しています。

初期の紙巻たばこは自分で巻く手巻きたばこでしたが、19世紀後半になると手工業的に作られました、この時すでに通常マウスピースといわれる吸い口がついており、吸う前に真ん中で切断するようになっていました。

（ダブルカットといいます。）

これが最初の工業的なフィルターといえるでしょう。

ただフィルターという特殊なものがついていたのではなく、あくまで紙巻部分の延長のようなものです。

ロシアの貴族の間では、その空洞部分に綿を詰める工夫もしていたらしい。でも、手間がかかりかなり高価になるので普及はしなかったようです。

このような吸い口付きたばこはかつてソ連、東欧、北欧のタバコに多く見られました。吸った感じはなんかボール紙のようなごつい感じの紙でした。

本格的なフィルターとしては、クレープペーパー（ちりめん紙）を棒状に束ねたものが1920年に特許として認められスイスで商品化されました。これを使ってフィルター付きタバコとして製造されたのが、1929年に発売されたデュ・モリエ（英国ピータージャクソン社）です。

アメリカでは1932年にパラメントが発売されましたが、これは綿を詰めた中空のチューブを付けたものでした。

1936年にヴァイスロイが発売されましたが、まだまだ高価で特殊な商品でした。

本格的なフィルターの時代は第二次世界大戦が終わって、世界的にマイルド指向となり（ビールやコーヒーもそのようです）、加えて、喫煙の害を疾病学的に調査研究することが始まり、健康がキーワードになりだしてからです。

1952年 ケント発売（濾過性ファイバーフィルターチップつき）

1953年 L&M 発売（セルロース・アセテート・チップつき）

1954年 ウINSTON 発売（ " ）

1955年 マールボロ発売（ " ）

1955年 ヴァイスロイ発売（セルロース・アセテートチップつきに変更）

1956年 セーラム発売（初のフィルターつきメンソールたばこ）

1956年 クール発売（フィルターつきメンソールたばこ）

このように、この時期今皆さんが吸っている主要銘柄が続々と誕生しました。

日本では・・・

1957年にホープ（10本入り）がフィルターつき第一号です。

本格的なフィルターの時代を作ったのは・・・

1960年に発売されたハイライトです。

一躍大ヒットとなり世界 NO. 1 ブランドになりました。

1969年にはチャコールフィルターを使ったセブンスターが発売。

1977年にはマイルドセブンが発売され、国内のタバコの殆どはフィルターつきになりました（1985年にほぼ100%）。

ただ、チャコールフィルターは日本独自とっていいでしょう、外国たばこも日本向けは殆どチャコールフィルターに変更し、それ以外の地域ではプレーンフィルターを使うことが多いようです。

その2 フィルターの効用

フィルターも今ではいろんな材質や、形態が開発されていますが、基本的には煙草の癖や、嫌みな部分を取り除き、煙の温度を下げ、よりマイルドに吸い易くするような工夫になっています。

チャコールは活性炭のことで、冷蔵庫のキムコと同じ理屈で臭いの吸着をします。

リセンドフィルターはその空洞部分で温度を低くしまるやかな煙にする効果があります。

フィルターの素材も原料の酢酸臭が気になるということもありましたが今では無味無臭でなんの障害もありません。

その3 フィルターの種類と代表的なたばこ（日本で発売されているもの）

☆プレーンフィルター（アセテートのみのフィルター）

ウィンストンソフトパック、ハイライト、プリンス、バイオレット、エコー、わかば、ベイリーズ（海外メーカーでは中小メーカー品、国産ではセブンスター以前の発売品）

☆チャコールフィルター

（アセテート部分と、アセテートにチャコールの粒を混入した2層構造）

マイルドセブン、マルボロ他（セブンスター以降に発売されたJT商品）

PM、ケント等（大手海外メーカーの日本向け商品）

チャコールを使うことにより、たばこの癖等が消され、香料による味付けが主体になります。同じチャコールフィルターでも紙にチャコールの粉を付着させたものもあります。（タビドフライト等）見た目、真っ黒です。

マルボロも日本で製造されているので表示は只のフィルターとなっていますが、ちゃんと日

本人向けにチャコールフィルターです。

(そのため、海外で購入したマルボロとは味が違うとよく言われます。)

☆リセストフィルター (フィルターの吸い口に近い部分が中空になっている)

パーラメント、コスモス等

その他、かつてキャビンやラクで採用されたトリプルチャコールフィルターなんてのもありました。これはチャコールを混入した部分をプレーンフィルターで前後を挟んだものです、キャビン85からのキャビンに変更になったおりにどうやら普通のチャコールフィルターに変更されたようです。

又、フィルターの部分にミントやプラチナの粒の入ったものがあります。

ナットシャーマンミント、これはフィルターとたばこの間に天然ミントの粒が入っています。

ナチュラルアメリカンメンソール、これはフィルターの真ん中にミントの粒が入っています。

それぞれこだわりのタバコです。

プラチナの粒が入っていたのは (過去形です、残念ながら販売中止になりました) カームライトです、中部地方限定でテスト販売していたのですが、売れなかったようで、販売中止になりました。

ついでに、フィルターのついていないたばこ

現在日本で販売されている両切りタバコは。

ピース、ゴールデンバット、しんせい、ラッキーストライク、ゴロワーズ、ガラム、チャーミナーです。

フィルターの形態については各メーカーがいろいろ名前をつけ差異化の為技術を駆使しています、最近ではアルファのようにフィルター部分の紙とフィルターの間に細かい隙間を作っているタバコもあります。

おまけですが、

タバコの香料のつけ方として、いろんな方法があります。

- 1, たばこの葉にしみこませる (樽漬けにして加香します)
- 2, 刻んだ葉にしみこませる、もしくは吹き付ける。
- 3, フィルターにしみこませる。
- 4, 巻紙にしみこませる。
- 5, 外箱もしくは内側の包装紙にしみこませる。
- 6, 粒を入れる。

等の方法があります、1, 2は殆どのたばこ製造におこなわれています。

5の方法はかつてダンヒルメンソールのように英国ではたばこに直接香料をつけることが許されなかった為の苦肉の策です。

みなさん日頃楽しんでいるタバコはどうでしょうか。

メンソールに限らず最近ではバニラフレーバーを巻紙に染み込ませているのもあります (カ

ルメフレーバー)

一度タバコをばらしてみるのもおもしろいですよ。

タバコの葉が匂うのか、巻紙から匂うのか、はたまた包装の箱なのか、メーカーの公表された情報では香料の成分同様このあたりは企業秘密でなかなか正確に知ることはできません。

でも1本ばらしてみると結構わかっておもしろいもんです。

次回はたばこの葉についていろいろ調べてみます。

今回の参考文献

タバコの歴史

上野堅貫著

大修館書店

タバコ・ウォーズ

フィリップ・J・ヒルツ著

早川書房